

Reform of medical education and research mind

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39639

医学教育改革とリサーチマインド

Reform of medical education and research mind

金沢大学医薬保健研究域医学系 神経分子標的学
堀 修

平成27年春、待ちに待った新幹線が金沢にやってきました。これまで「はくたか」, 「上越新幹線」と乗り継いで約4時間かかっていた金沢-東京間が、最短で2時間半になるわけですから、非常に喜ばしいことです。より多くの人々が金沢を訪れ、情報が交換され、これまで以上に金沢を国内外にアピールできれば、と期待しております。しかし、一方で、この大きな変化に乗り切れないと、結果としてより多くの人々が東京に流れてしまい、あまりメリットが残らない、という可能性もあります。つまり、私たちは、今、非常に大切な時を迎えていると言っています。

さて、現在、金沢大学医学類に、新幹線と同じくらい、或いはそれ以上の大きなうねりとなって押し寄せて来ているのが、医学教育改革です。これは私たち教員にとって、これまでにないほどの大きなインパクトであり、多久和医学類長のもと、教育委員会を中心に、頻繁に具体的な対応策が協議されております。これまで、医師国家試験、卒業判定、研究医育成などが議題になることは多かったのですが、ここに来て医学教育改革、中でも医学教育のグローバル化が大きな議題になっております。以下、私が理解している範囲で、金沢大学医学類における医学教育改革の現状と課題について述べさせていただきます。

医学教育のグローバル化

2010年に、米国以外の医学生に対して、米国医師国家試験の受験資格を審査する団体であるECFMGが、「2023年より、国際認証を受けている大学医学部出身者にのみ、米国医師国家試験の受験資格を与える」という宣言を行いました。このことにより医学教育に対する国際認証という考えが世界中に広がり、日本においても、多くの大学医学部、医科大学がこの国際認証を取得すべく、準備を進めることになったわけです。この医学教育のグローバル化ですが、具体的に述べますと2つの柱からなっています。一つは、医学生に世界水準にかなった、つまり国際認証を受けた、臨床技能を身に付けてもらうこと、2つ目は、将来、医師や医学者として国際的に活躍してもらうべく、学生のうちに各専門分野に必要な英語能力を高めてもらうことです。前者の達成には臨床実習時間の拡大が必須と考えられており、カリキュラムの前倒しや教員の確保、模擬患者の活用などを伴うことから、まだ、それなりの準備期間が必要な状況です。一方、後者に関しては、本学においては既に、外国人教師が引率する、5年生対象の医学研修が実施されています。この医学研修は学生たちにも非常に好評で、この夏も11名がニューヨークで英語による医療面接、病院見学、レジデントや研究者との意見交換に挑戦します。また、海外の大学医学部との間で、参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）の交換プログラムがスタートしております。これらのプログラムは、「未来医療研究人材養成拠点形成事業」や学内外の奨学金による支援を受けて行

われております。私もわずかではありますが、これまで他の先生方と共に、これらの取り組みをお手伝いさせていただきました。その中で特に感じたことは、やはり英語はコミュニケーションを行う為の世界共通のツールであり、実際の現場で、生きた英語を学ぶことは非常に重要である、ということです。医学研修から帰国した学生達の様子を見ると、海外の医療機関などで得た経験が、一人一人にとって極めて大きな刺激になっていることがよくわかります。いつの時代でも、若い世代は、古い世代から頼りないと見られがちですが、今どきの学生たちは、私たちが予想している以上に、英語を通じて様々なことを吸収したり、新たな環境に適応する能力を持っていると思います。

医学研究者の育成

医学教育のグローバル化と並んで大きな課題となっているのが、「研究医の育成」、或いは「リサーチマインドを持った臨床医の育成」です。金沢大学医学類においても、残念ながら医学類を卒業して、基礎の教室で研究医の道を選ぶ者は非常に少ない状況です。2004年に導入された、初期臨床研修義務化が一因とも言われておりますが、それ以外にも、医学部におけるカリキュラムの増大、国家試験重視の傾向等、学士課程における医学教育も原因となっていると考えられます。この状況を打破する為、本学では3年前に、メディカルリサーチトレーニング(MRT)プログラムを開始いたしました。このプログラムは、学生がより早期から医学研究に興味を持ち、各研究室での研究に参加してもらうように、学類を挙げてサポートしよう、というものです。「メディカルサイエンス入門」という導入講義に始まり、研究室の決定、研究への参加、そして数年後に成果発表と続きます。現在は、まだ、教員がイニシアティブをとっておりますが、次第に学生同士、特に上級生が下級生の指導を行うことができると考えております。今年は、「学内リトリート」と呼ばれる学内での成果発表会の他、複数の大学が参加する「関東リトリート」、「全国リトリート」にも参加し、学生が成果を発表する予定です。また、前述の医学教育のグローバル化プログラムとも連携し、海外で行う医学研修にもMRT学生を多数参加させております。これらMRTのサポートに関しても、「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の支援を受けております。学類内外でようやく浸透しつつあるMRTですが、今後、真の「医学研究者」、或いは「リサーチマインドを持った臨床医」を育成していく為、大学院教育との連動等も検討する必要があるかと思っております。

上記の課題を克服することは、我々教員の負担を増大させることは間違いありません。しかし、それだけやりがいのある仕事でもあるわけですから、私も微力ではありますが、諸先輩方とともに少しでも尽力できればと考えております。皆様からのご指導、ご鞭撻をいただければ幸いです。